

平成30年度小学校教育課程研究協議会

生活



福島県教育委員会

生活科の目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

生活科改訂の趣旨

- 具体的な活動を通して、どのような思考力等が発揮されるか十分に検討する必要がある。
- 学校全体で取り組むスタートカリキュラムとする必要がある。
- 社会科や理科、総合的な学習の時間をはじめとする中学年の各教科への接続を明確にすることが必要である。

改訂の要点①

(1) 改訂の基本的な考え方

幼児期の教育のつながりや小学校低学年における各教科等における学習との関係性、中学年以降の学習のつながりも踏まえ、体験的な学習を通して育成する資質・能力(特に「思考力、判断力、表現力等」)が具体的になるよう見直すこととした。

(2) 目標の改善

生活科において育成を目指す三つの資質・能力を「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理して示した。体験的な学習を通じて、「身近な生活に関する見方・考え方」を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを明確化した。

改訂の要点②

(3) 内容構成の改善

学習内容を

「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」

「身近な人々、社会及び自然と関わる生活に関する内容」

「自分自身の生活や成長に関する内容」

の三つに整理した。

改訂の要点③

(4) 学習内容、学習指導の改善・充実

具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気づきを確かなものとしたり、新たな気づきを得たりするために、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現し考えたり、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」などの多様な学習活動を行ったりする活動を重視した。

改訂の要点④

- 動物の飼育や植物の栽培などの活動は2学年間にわたって取り扱い、引き続き重視する。
- 各教科等との関連を積極的に図り、低学年教育全体の充実を図り、中学年以降の教育に円滑に移行する。
- 幼児期における遊びを通した総合的な学びから、各教科等における、より自覚的な学びに円滑に移行できるよう、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫(スタートカリキュラム)を行うことを明示した。

主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント①

(1) 指導計画作成に当たっての配慮事項

- 年間や、単元(題材)など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。
- 単に思いや願いを実現する体験活動を充実させるだけでなく、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視するなど、気付きの質を高めることを意識すること。

主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント②

(2) 生活科の学習指導の進め方

① 主体的な学びの視点による指導

児童の生活圏である学校、家庭、地域を学習の対象や場とし、対象と直接関わる活動を行うことで、**興味や関心を喚起することに加え、表現を行い伝え合う活動の充実を図るよう**にする。

② 対話的な学びの視点による指導

生活科では、身の回りの様々な人々と関わりながら活動に取り組んだり、伝え合ったり交流したりする中で、一人一人の発見が共有され、新たな気づきが生まれたり、関係が明らかになったりすることを踏まえ、**他者との協働や伝え合い交流する活動により、児童の気づきを質的に高めるよう**にする。

主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント③

(2) 生活科の学習指導の進め方

③ 深い学びの視点による指導

思いや願いを実現していく過程で、一人一人の子供が自分との関わり
で対象を捉えていくことが生活科の特質である。「身近な生活に関わる
見方・考え方」を生かした学習活動が充実することで、気付いたことを基
に考え、新たな気づきを生み出し関係的な気づきを獲得するなどの深い
学びを実現するようになる。

主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント④

(2) 生活科の学習指導の進め方

④ 気付きの質を高めるために

- ・試行錯誤や繰り返す活動を設定する
- ・伝え合い交流する場を工夫する
- ・振り返り表現する機会を設ける
- ・児童の多様性を生かし、学びをより豊かにする

移行期間における教育課程の特例及び留意点

平成30年度及び平成31年度の第1学年及び第2学年の生活の指導に当たっては、現行小学校学習指導要領第2章第5節の規定にかかわらず、**その全部または一部について、新小学校学習指導要領第2章第5節の規定によることができる。**

特に注視したい点

幼稚園教育要領等に示す**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**との関連を考慮する。特に、小学校入学当初においては、**生活科を中心とした総合的・関連的な指導**や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をする。